

阿寒摩周国立公園内のカルデラ

阿寒摩周国立公園の地形は何十万年にも及ぶ火山活動によって形作られており、その中には3つの大きなカルデラ（火山口が崩壊した時に形成される大きなクレーター）があります。南西部の阿寒カルデラ、北部の屈斜路カルデラ、北東部の摩周カルデラの場所にはそれぞれ阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖という同名の湖が点在しています。

阿寒カルデラは1万5千年前に形成されたカルデラで、そこには雄阿寒岳や雌阿寒岳、風不死岳などの火山が位置しています。また、カルデラ周辺には大きさの異なる約10つの湖が点在しており、それらの多くはこれらの火山が噴火した際にできたと言われています。その中でも最も大きいクレーター湖である阿寒湖の全長は13平方キロメートルにも及びます。

白湯山と雌阿寒岳の山頂からは阿寒湖を一望でき、雄阿寒岳の山頂からはその他の比較的すると小さい湖をいくつか目にする事ができます。さらに、阿寒湖南部の湖畔では、火山活動地域に特徴的なボコボコと湧き出るボッケ（泥火山）が観察できます。

屈斜路カルデラは約10万年～13万年前に発生した大規模な火山噴火によって形成されたカルデラで、そこにある全長80平方キロメートルに及ぶ屈斜路湖は日本一大きなカルデラ湖です。

藻琴山の山頂からは、屈斜路湖やその周辺の火山地形を一望できます。また、湖畔の景色を楽しむには和琴半島一周コースが最適です。このコースは和琴半島を取り囲むように伸びており、オヤコツ地獄を通過して、湖の水や岩から温泉が湧き出るスポットの前を通ることができます。

3つのカルデラの中で摩周カルデラは最も若く、約7000年前に形成されました。このカルデラいっばいに形作られた摩周湖（19平方キロメートル）の水は、世界でも有数の透明度を誇ります。

摩周湖の東端にある摩周岳からは湖や周辺エリアを一望でき、カルデラ湖の端から摩周岳の山頂まで続く摩周岳登山道の道中には見晴らしの良いスポットが点在しています。また、その近くにはある西別岳の山頂からも湖を見渡すことができます。山頂へは西別岳登山道を登って行くことができます。